

平成 18 年度第 2 回日本海漁況予報

「平成 18 年度日本海さば類・マイワシ・ブリ長期漁況予報」

別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター
日本海区水産研究所がとりまとめた結果

今後の見通し（2006 年 11 月～2007 年 3 月）

漁況（来遊量）

さば類（島根県～新潟県）

前年を下回る。

マイワシ（島根県～新潟県）

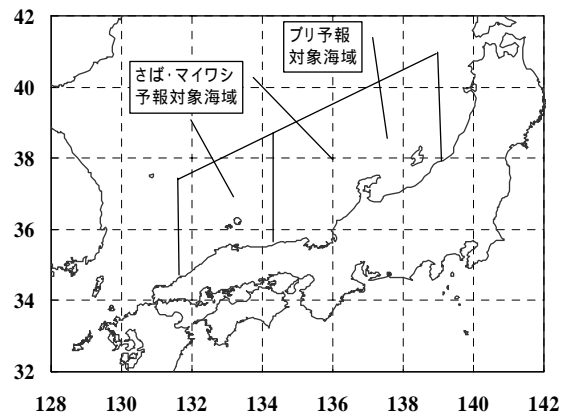
低調に推移する

ブリ（兵庫県～新潟県）

0 歳魚は前年並み。

1 歳魚は前年を下回る。

2 歳魚以上は前年を上回る。



「前年」は 2005 年 11 月～2006 年 3 月を示す。

問い合わせ先

水産庁 増殖推進部 漁場資源課 沿岸資源班 担当：青木、田中、佐藤

〒100-8950 東京都千代田区霞ヶ関 1-2-1

電話：03-3502-8111(内線 7375) 直通電話：03-3501-5098、ファックス：03-3592-0759

電子メール：yuusuke_sato@nm.maff.go.jp

独立行政法人 水産総合研究センター 日本海区水産研究所 業務推進部

〒951-8121 新潟市水道町 1 丁目 5939-22

電話：025-228-0451、ファックス：025-224-0950、電子メール：fra-jki@ml.affrc.go.jp

なお、本予報は水産庁のホームページ(<http://www.jfa.maff.go.jp/release/index.html>)、水産総合研究センターにおける我が国周辺水域資源調査推進委託事業のホームページ(<http://abchan.job.affrc.go.jp/>)、及び日本海区水産研究所のホームページ(<http://www.jsnf.affrc.go.jp/>)に掲載されます。

参 画 機 関

島根県水産技術センター	山形県水産試験場
鳥取県水産試験場	秋田県水産振興センター
兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター	青森県水産総合研究センター
京都府立海洋センター	社団法人 漁業情報サービスセンター
福井県水産試験場	水産庁 増殖推進部 漁場資源課
石川県水産総合センター	独立行政法人 水産総合研究センター 西海区水産研究所 日本海区水産研究所
富山県水産試験場	
新潟県水産海洋研究所	

日本海さば類・マイワシ・ブリの漁況予報

今後の見通し（2006年11月～2007年3月）

1. さば類（島根県～新潟県）

日本海西部海域では、1歳魚（2005年級）を主体とした漁獲がみられ、来遊資源量は前年を下回る。中部以北の沿岸域では、前年並みの来遊となる。

2. マイワシ（島根県～新潟県）

マイワシの来遊は引き続き低調に推移し、漁獲は散発的になる。

3. ブリ（兵庫県～新潟県）

各年級の来遊は以下のとおり予想される。

体長30～45cmの0歳魚（2006年級）：前年並み。

体長50～65cmの1歳魚（2005年級）：前年を下回る。

体長70cm以上の2歳魚以上（2004年およびそれ以前の年級）：前年を上回る。

漁況の経過（2006年1月～9月）及び今後の見通し

1. さば類（図1～図2）

2006年1月～9月の経過

日本海で漁獲されるさば類は、東シナ海と日本海の間を回遊する対馬暖流系資源の一部で、その動向は東シナ海域と密接に関わっている。過去5か年（2001年～2005年）の日本海主要港（島根県～新潟県）におけるサバ類の漁獲量は15,000～22,000トンであった。

2006年1月～9月における日本海主要港（島根県～新潟県）の水揚量は約9,800トンで、前年同期（11,900トン）の82%に止まり、過去5か年平均（11,000トン）を下回った。府県別では、鳥取県及び島根県（まき網）で全域の約4割（4,020トン）を占めた。中部以北におけるまき網漁業（主体は石川県及び新潟県）および定置網（兵庫県以北）はともに2004年を上回る月が多かったが、好漁の前年を下回る傾向であった。

漁獲の主体はマサバの小型魚で、日本海西部（まき網）では、冬から春先にかけて体

長 25cm 前後の 1 歳魚 (2005 年級) が多く、夏季には 10-15cm の 0 歳魚 (2006 年級) の加入がみられた。日本海中部(定置網)では、冬から春先に体長 25cm の 1 歳魚と体長 35cm の 2 歳魚が多く、春から夏にかけて体長 15cm 前後の 0 歳魚 (2006 年級) の加入とともに、体長 30cm 前後の 2 歳魚 (2004 年級) の漁獲も見られた。

資源状態と年級の豊度

対馬暖流系におけるマサバの資源量は、1992～1996 年に増加傾向にあったが、1997 年に急減し、1999～2005 年は低い水準にある (H18 年度マサバ対馬暖流系群の資源評価より)。加入量は 1995 年以降減少傾向が続き、2002 年級及び 2003 年級は極めて低い水準に止まっているが、2004 年級の豊度は高く、2005 年級は 2004 年級より低い。2006 年級の評価は難しいが、前年 (2005 年級) 並みと予測されている (西海区水産研究所「H18 年度第 1 回対馬暖流系アジ・サバ・イワシ長期漁海況予報」より)。これらのことから、0 歳魚 (2006 年級) は前年並み、1 歳魚 (2005 年級) は前年を下回り、2 歳魚 (2004 年級) は前年を上回り、全体の来遊量は前年を下回ると考えられる。

日本海中部以北海域について

中部以北海域における漁獲量はここ数年減少傾向にある。まき網漁業の漁獲量は 2001 年の 7,800 トンから 2004 年の 3,400 トンにまで減少した後、2005 年には 5,900 トンに増加した。2006 年の 1 月～9 月の漁獲量は前年同期より若干減少した。一方、定置網は 2001 年以降増加傾向にあり、2006 年 1 月～9 月の漁獲量 (2,200 トン) は好漁の前年同期 (2,300 トン) とほぼ同じであった。定置網の漁況が比較的好調であることから、沿岸域の来遊量は前年並みと考えられる。

海況について

日本海区水産研究所によってとりまとめられた海況予報によれば、2006 年 10 月～12 月、対馬暖流域の表面水温は「やや高め」、50m 深水温は西部で「やや低め」、北部で「平年並み」、また島根沖および山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは「やや強い」と予想されている。全般的には漁況に与える影響は少ないと思われるが、西部海域は水温が「や

や低め」であることから、今後の動向を特に注意深く見守る必要がある。

2. マイワシ（図3～図4）

2006年1月～9月の経過

日本海におけるマイワシの漁獲量は1990年以降著しい減少傾向が続き、過去5か年（2001年～2005年）の平均漁獲量は920トンにまで減少した。2006年1月～9月における日本海主要港（島根県～新潟県）への水揚量は2,080トンで、前年同期の1,120トンを大きく上回り、1月～9月における過去5か年平均（710トン）に比べると大きく増加したが、その漁獲は依然散発的で低水準にとどまっている。漁獲の内訳は鳥取県のまき網による漁獲量が1,600トンで全体の77%を占め、他はほとんどが定置網であった。

資源状態と年級の豊度

マイワシ資源は極めて低位の状態が続いており、2006年級の加入水準も低いと考えられる。

3. プリ（図5～図6）

2006年1月～9月の経過

この期間における兵庫県～新潟県の主要定置網の水揚量は4,383トンであり、前年同期の4,297トンおよび過去5か年（2001年～2005年）平均（4,374トン）とほぼ同じであった。なお、この期間における山形県～青森県の主要定置網の水揚量は457トンで、好漁の前年同期（2,347トン）を大きく下回り、過去5か年（2001年～2005年）平均（957トン）も下回った。

兵庫県～新潟県における0歳魚（2006年級）の漁獲量は、5月以降特に8月～9月に大きく増加し、前年並みに堅調に推移した。1歳魚（2005年級）の漁獲は、前年および2004年に比べて大きく減少した。2歳以上魚（2004年級および2003年以前の年級）の漁獲は、特に北上期に前年を大きく上回った。なお、山形県～青森県の北部3県

では前年の漁獲量は特に北上期に各年級ともに大きく増加したが、本年は前年に比べて各年級ともに大きく減少し、2004年並みに推移した。

資源の状態と年級の豊度

ブリの資源水準は1990年代以降安定し、海洋環境もブリの来遊に好適である。2006年級(0歳魚)の資源水準は、9月までの漁模様から前年並みと判断される。2005年級(1歳魚)の資源水準は、来遊量指数から前年並みと判断されるが、2006年1月～9月における漁模様は前年および2004年を大きく下回ったことから、前年より低いと判断される。2004年級(2歳魚)の資源水準は来遊量指数および漁模様からは比較的高いと判断される。

海況の予測について

日本海区水産研究所によってとりまとめられた海況予報によれば、2006年10月～12月の対馬暖流域の50m深水温は北部で「平年並み」、また佐渡沖と山陰・若狭沖の冷水域の張り出しはそれぞれ「やや弱い」と「やや強い」と予想されている。これらのことから、新潟・富山・石川県沿岸の定置網へブリが入網する海況条件は平年並み、兵庫県～福井県沿岸の定置網へブリが入網する海況条件はやや良いと考えられる。

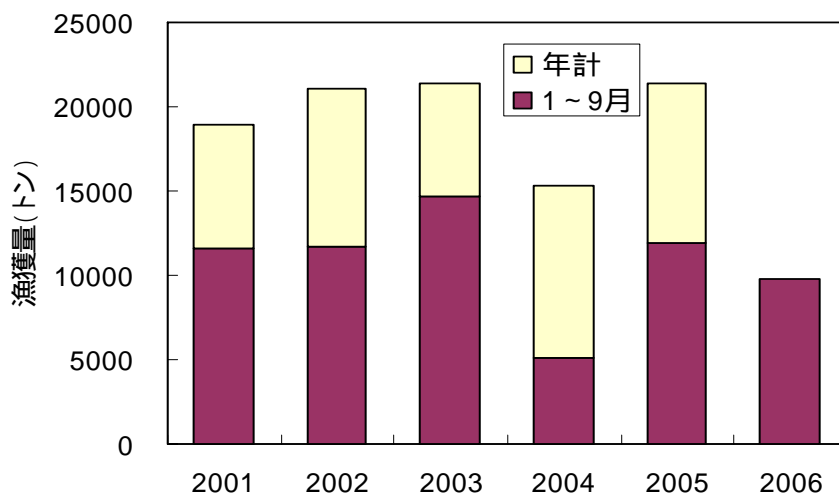


図1 さば類の漁獲量の経年変化(島根県～新潟県、2006年は1月～9月まで)

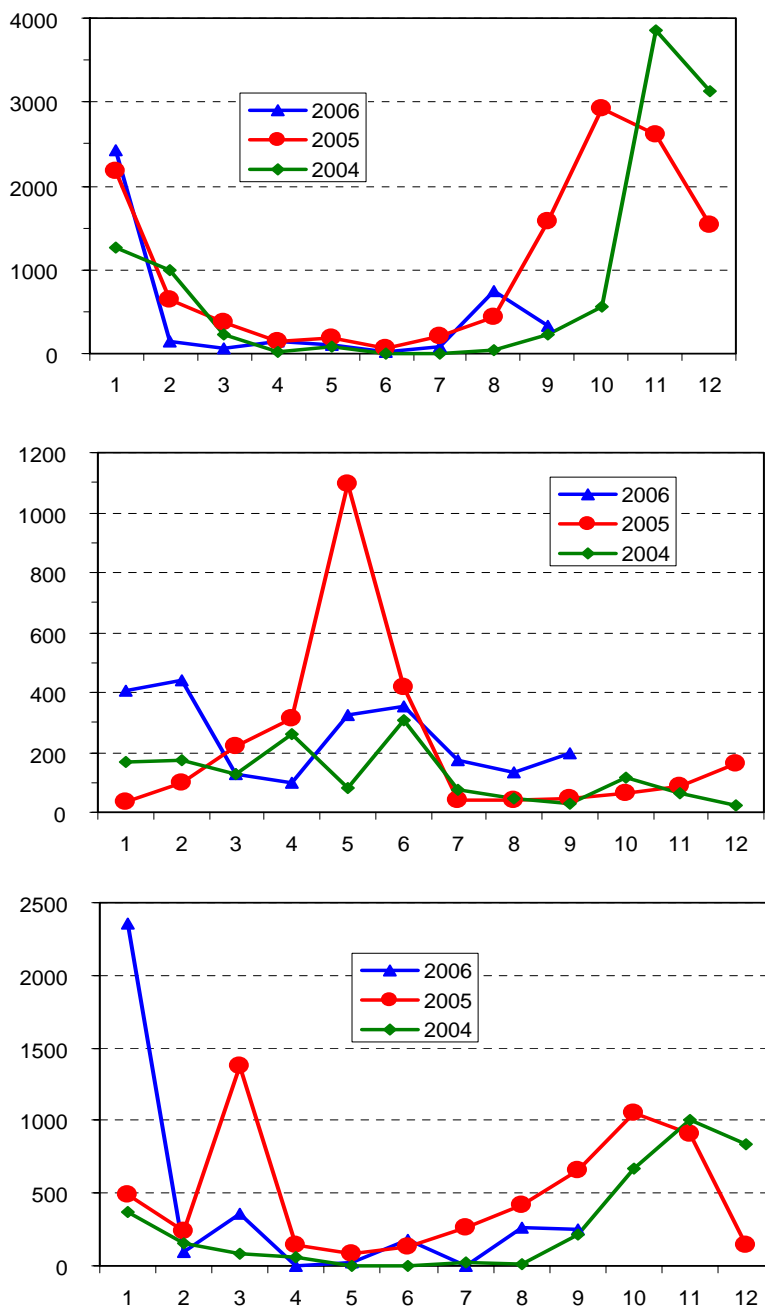


図2 さば類の月別漁獲量の推移（2004-2006年、2006年は9月まで）

上：鳥根県～鳥取県（まき網）

中：兵庫県～新潟県（定置網）

下：兵庫県～新潟県（まき網：定置網以外を集計）

*縦軸：漁獲量（トン） 横軸：月

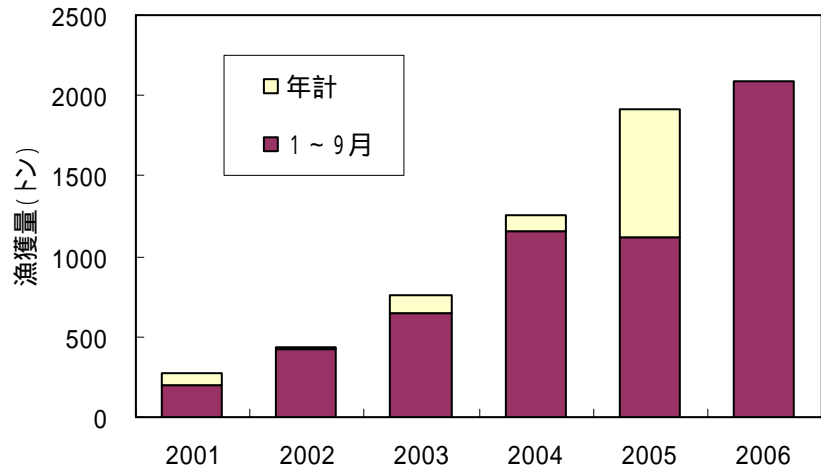


図3 マイワシの漁獲量の経年変化(島根県~新潟県、2006年は1月~9月まで)

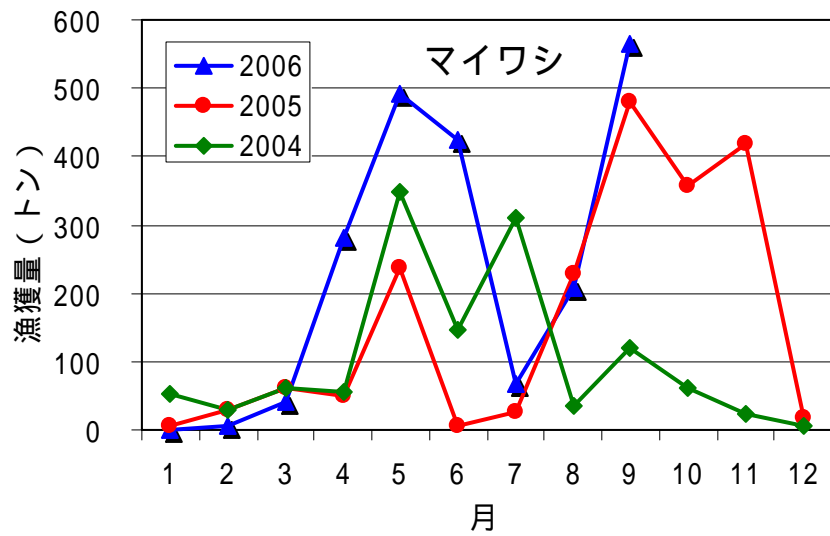


図4 マイワシの月別漁獲量の推移(2004-2006年、2006年は9月まで)

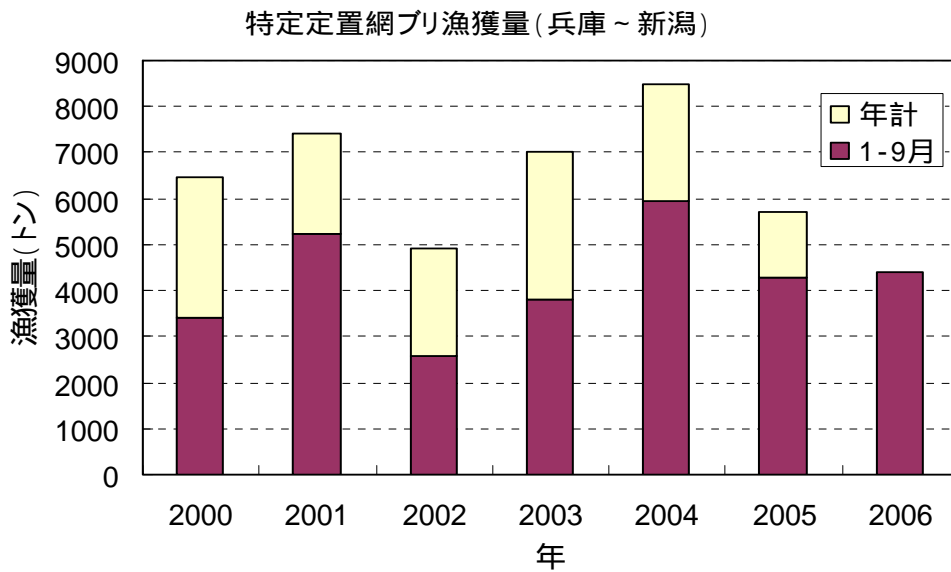


図5 ブリの特定定置網漁獲量年変化 (2000-2006年、2006年は9月まで)

* 兵庫～新潟県の集計

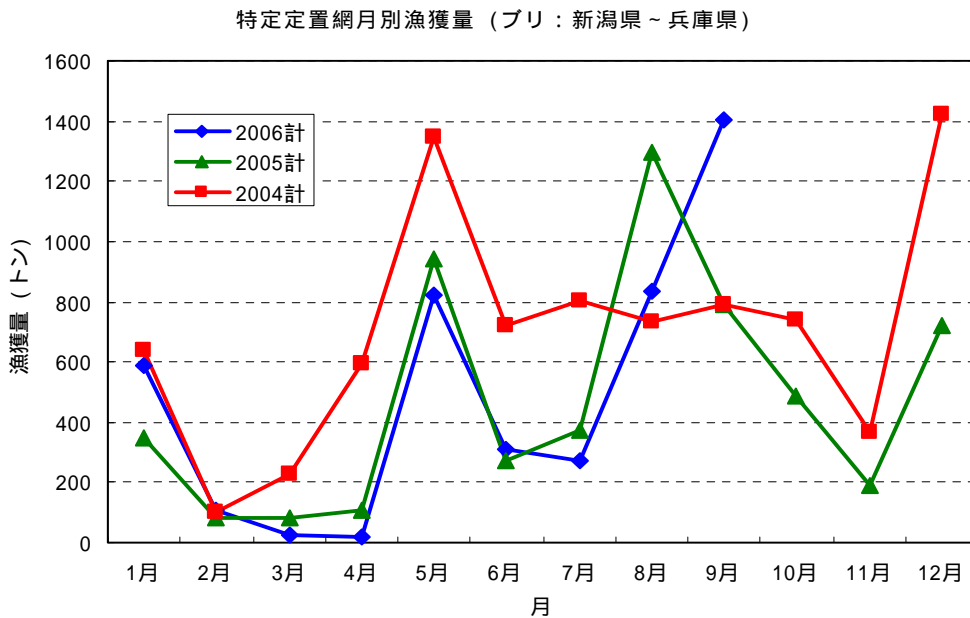


図6 ブリの特定定置網月別漁獲量 (2004-2006年、2006年は9月まで)

* 兵庫～新潟県の集計